

							石川県立金沢北陵高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
1 遅刻・欠席を減らす、服装容儀を整えるなど基本的な生活習慣のより一層の確立を目指す。	① 全職員で時間厳守について指導を徹底するとともに、保護者との連絡を密にするなどして、遅刻・欠席の減少に努める。	生徒指導 学年 各教科 全職員	昨年度5月時点で前年比148%であった遅刻者数は1月時点では87%に減少した。しかし、欠席は5月時点で前年比120%で1月時点に於いても114%である。	【成果指標】 遅刻者数が前年度より減少した。	遅刻者数が前年度比、 A 80%未満であった B 80%以上～90%未満であった C 90%以上～100%未満であった D 100%以上であった	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	毎月調査	
				【成果指標】 欠席者数が前年度より減少した。	欠席者数が前年度比、 A 80%未満であった B 80%以上～90%未満であった C 90%以上～100%未満であった D 100%以上であった	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	毎月調査	
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規律・マナーの向上を目指す。	生徒指導 全職員	服装・頭髪の乱れが目につくようになり、それとともに問題行動も増加傾向にある。	【満足度指標】 様々な機会を捉え、服装・頭髪に関する注意を与えることにより、自発的に規律・マナーの向上に努める。	私は頭髪・服装容儀やマナーなどについて A 積極的に守った B 必要に応じて守った C 時々守った D ほとんど守らなかった	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査	
2 少人数授業の工夫など授業改善に努め、生徒一人ひとりに応じた学力の向上を図る。	① 研究授業や公開授業を積極的に行い、授業改善に努める。	保健環境 学年 生徒指導	生徒の行動や悩みについて担任が対応している部分が多い。全職員が対応できる雰囲気作りが必要である。	【満足度指標】 全教員が生徒の行動や悩みについて注意し、支援してくれる。	自分の行動や悩みについて先生方は A いつも注意し、支援してくれた B 時々注意し、支援してくれた C あまり注意し、支援してくれなかった D ほとんど注意、支援してくれなかった	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査	
				② わかる授業を行うとともに、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努める。	教務 各教科	約半数以上の科目で興味を持っていた生徒が47.0%であり、生徒の興味・関心を引き出すためにさらなる授業改善が必要である。	【満足度指標】（生徒） 興味を持って、授業に参加することができた。	私は A 多くの科目で興味を持てた B 約半数の科目で興味を持てた C 約3分の1の科目で興味を持てた D わずかの科目しか興味を持てなかった
	③ 授業以外の時間での学習習慣の定着を図る。	教務 進路指導 学年 各教科	授業以外の平均学習1時間以上の生徒が36.3%とやや向上したが目標にはほど遠く、今まで以上の取り組みが必要である。	【成果指標】（生徒） 自主的な学習を継続的に取り組むことができた。	授業以外の平均学習が、1時間以上の生徒が、 A 70%以上である B 50%以上～70%未満である C 20%以上～50%未満である D 20%未満である	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	定期的に調査	
④ 個別指導や各種資格、検定試験に対する取り組みを強化する。	各教科 学年 進路指導	多様な進路実現に向け、一人ひとりに応じた学力向上の方策が必要である。	【努力指標】 放課後などの時間で積極的に補習や個人指導を行い、学力の向上を図った。	授業外で補習や個人指導を A 積極的に行っている B 必要に応じて行っている C 時々行っている D ほとんど行っていない	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査		

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 生徒一人ひとりの進路の実現に向けて、組織的な進路指導体制とガイダンス機能を充実させたキャリア教育を推進する。	① 各学年に応じた進路学習を工夫し、主体的で継続的な学びができるように支援する。	進路指導 教務 学年 企画	多様な進路希望があり、それに対応するために組織的な指導体制と生徒一人ひとりに対するガイダンス機能の充実が求められる。	【努力指標】 本校総合学科の教育課程を理解し、多様な進路実現に向けて科目選択等の生徒への支援を充実させる。	本校教育課程を理解し、生徒への助言・支援が A 十分に助言・支援できる B おおむね助言・支援できる C あまり助言・支援できない D ほとんど助言・支援できない	A+Bの合計が 70%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査
				【満足度指標】（生徒） 進路行事・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を通じて、進路について意識し考えることができた。	進路行事・「産社」・「総合」の学習が A 進路を考える上で、大いに役立った B ある程度役立ったと感じる C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった	A+Bの合計が 70%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に生徒アンケート
	② 個別指導や各種資格、検定試験に対する取り組みを強化する。	各教科 学年 進路指導	個別指導や各種資格、検定試験に対する今以上の取り組みが求められる。	【成果指標】 各種資格試験の受験者数が増加した。	受験者数（延べ）が、 A 1000人以上であった B 850人以上～1000人未満であった C 750人以上～850人未満であった D 750人未満であった	C、Dの場合、 次年度の取り組みを再検討	年度末に集計
4 地域行事・学校行事への参加を促し、部活動の積極的な加入・活動を推進し、その活動を通して、体力の向上を図り、豊かな心を育てる。	① 部活動の活性化を目指し支援・運営する。	特活 全職員	部活動加入率は80.0%以上であるが、実際に活動している生徒数は加入率より低く、目標を持ってないで活動に参加する生徒も多く、充実感が得られないまま部活動を終える生徒が多い。	【努力指標】 部員に目標を持たせ、充実した活動になるよう支援する。	提供された情報に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A+Bの合計が 70%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査
				【満足度指標】（保護者） 進路について、必要な情報が提供されていた。	提供された情報に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A+Bの合計が 70%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査
	② 地域行事・学校行事等に参加し、地域との連携を密にする。	特活 全職員	地域社会の一員として、社会に貢献する精神を育むことが必要である。	【努力指標】 生徒が地域行事・学校行事に参加することを促し、その活動を支援する。	部活動の指導に A ほぼ毎回参加し、十分な支援ができた B 週2～3回活動に参加し、概ね支援ができた C あまり参加せず、十分な支援をしていない D ほとんど参加せず、支援もしていない	A+Bの合計が 70%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査
				【満足度指標】（生徒） 部活動に積極的に参加し、目標を持って活動することができた。	私は A ほぼ毎回部活動に参加した B 週2～3回部活動に参加した C あまり参加できなかった D 参加できなかった	A+Bの合計が 70%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に生徒アンケート
				【成果指標】（生徒） 清掃活動や地域行事、ボランティア等に参加した。	生徒が地域行事・学校行事に参加することを A 積極的に支援している B ある程度支援している C あまり支援していない D まったく支援していない	A+Bの合計が 80%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査
					一度は参加した生徒が（半期） A 100人以上であった B 75人以上～100人未満であった C 50人以上～75人未満であった D 50人未満であった	C、Dの場合、 次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に集計 （半期・年間調査）